

答 申 書

門 教 審 第 16 号

平成29年8月16日

門真市教育委員会 様

門真市魅力ある教育づくり審議会

会長 森田 英嗣

魅力ある門真の教育づくりについて中間答申書

平成28年11月1日付け門教総第635号に門真市教育委員会から諮問のありました「門真市教育振興基本計画の理念に基づく教育のあり方について」、ここに中間答申として報告いたします。

1. はじめに

門真市魅力ある教育づくり審議会では、門真市教育委員会から「門真市教育振興基本計画の理念に基づく教育のあり方について」の諮問を受け、本審議会を計4回開催し、内3回は、「子どもの学ぶ意欲向上部会」及び「つながりのある教育の創造部会」に分かれて、門真の子どもたちにとってより良い教育のあり方の議論を深めてまいりました。

本審議会の審議は継続中ではありますが、現時点での「門真市教育振興基本計画」における施策展開の方向性などについて、審議結果を次のとおり中間答申としてまとめましたので、門真市教育委員会として、平成30年度の施策立案に活かしていただくよう提言します。

2. 提言

(1) 確かな学力と豊かな心を育むために

子どもの夢と幸せを育むため、主体的かつ意欲的に取り組むことができる学習環境を整えることはもとより、授業・学級活動・学校行事・部活動、職場体験学習をはじめとした地域と連携した教育活動などを通して、子どもたちが自己肯定感を高める機会を増やしていく必要があります。

現在、門真市で行っている「開発的生徒指導」については、子どもと教員・大人との信頼関係を基盤とした指導を大切にしており、共感的な人間関係を築いていく中で、自尊感情を高め、将来の自己実現につながるものが期待されるものであり、引き続き、学校現場への浸透を図りつつ、充実・発展させていく必要があると考えます。

また、子どもたちの多様な学びの機会の実現のため、「かどま土曜自学自習室サタスタ」や「まなび舎Kids」、「まなび舎Youth」など、地域や関係機関と連携した取組を引き続き充実させるとともに、今般の学習指導要領改訂を踏まえ、より多様な人間関係の中で主体的・対話的で深い学びをひきだす授業を一層進めるため「門真市版授業スタンダード」の改善及び周知と普及に力を入れるよう求めます。

(2) 「チーム学校」の構築に向けて

学校の教育力・組織力を向上させるため、また、昨今、指摘されている教員の多忙化の解消をめざすためには、校長のリーダーシップの下、様々な人材が一丸となって適切に機能する組織の確立、「学校組織マネジメント」の推進が重要となっています。

また、学習指導要領の改訂に伴い、道徳・英語の教科化、プログラミング教育などによる新たな指導内容が増加することなどもあり、学校への支援が求められます。

このような観点から、教員と教員以外の人材が適切な役割分担を行い、様々な情報を共有しながら課題解決に取り組む「チーム学校」の体制を構築していく必要があると考えます。

具体的に、これらの課題を解決していくためにはスクールソーシャルワーカーやス

クールカウンセラーの増員、教育活動を支援するための支援員を派遣するなど、「チーム学校」を進めるための人員配置について検討を求めます。

(3) きめ細やかな指導ができる教育環境づくりについて

現在、小学校から中学校に進級した際に生じる、いわゆる「中1ギャップ」の対策として、門真市では小学校での学級担任制と中学校での教科担任制という制度上の違いも踏まえ、高学年を中心に、専科教員が授業を行ったり、学級担任であっても他クラスで指導を行ったりするなど、指導方法の工夫をしています。学校規模によっては困難な場合もあります。

また、小学校、中学校の校種を超えた兼務発令による教員交流や、夏季休業中における小中の合同会議等、小中の壁を乗り越える様々な取組が実施されていますが、物理的・時間的に限界があります。

今後は、より一層、子どもの発達段階を重視した取組を進めるため、他市における教育環境づくりの先進事例を調査し、義務教育学校、小中一貫校等の研究をしていく必要があると考えます。

また、門真市独自で行っている任期付教員配置による少人数学級編制については、きめ細かく指導を行うことができるとの校長や教員の意見も多く、一定の事業効果はあったと考えられます。しかしながら、学力テスト結果や学習意欲の向上等に関する定量的な検証結果については、現時点では明確な効果が表れていないことが示されました。

このようなことから、任期付教員配置による少人数学級編制については、生徒指導上の課題の多様性や、学校の実状を勘案し、学習指導要領改訂も踏まえ、「チーム学校」の観点から、学校の裁量を拡大し、柔軟な人材活用を可能にするなど、制度の発展的改善の検討を求めます。

(4) 子どもの自己実現に向けて

子どもの人間関係は授業内に限らず、学級活動・学校行事・部活動、職場体験学習をはじめとした地域と連携した教育活動などを通して育まれることが考えられます。

特に中学校生活の場においては、部活動における人間関係の形成も重要であり、子どもの自己実現にも大きな役割を果たしています。

一方で、各クラブ顧問の指導における技術面の専門性や人事異動などによる継続性、また、休日なども含めたクラブ顧問の長時間勤務など、様々な課題に加えて、自分が望むクラブがないために思い悩む生徒がいることも事実です。

さらに魅力ある部活動を実施するために、今後、門真市の中学校における部活動の実態を把握しながら、外部指導員の活用、休養日の導入、学校の単位を超えた部活動のあり方、クラブの有無に基づく通学区域の弾力的運用など、他市の取組等も参考に、総合的な部活動のあり方の検討を求めます。

3. 今後に向けて

本中間答申以降も、「門真市教育振興基本計画」の理念に基づく教育のあり方について、今後の課題も踏まえながら、柔軟かつ活発に議論を重ねていきたいと考えています。